

描かれた女性 ―近代日本画とルネサンス絵画にみる―

近代日本とルネサンス期イタリアそれぞれの美術史において、「女性」はどのように描かれてきたのでしょうか。

本講座では、前半は近代の日本画をテーマに、明治から昭和にかけて竹久夢二をはじめとする様々な作家から生まれた女性像を、各作品から読み解きます。

後半には美人画と肖像画の結節点ともいえるルネサンス期絵画を取り上げ、聖母像や女神像について、女性表現の変遷に着目しつつ当時の社会との関係から解説します。

時 間：18：00～19：30

講 師

会 場：カレッジプラザ（秋田市中通二丁目 1-51）

秋田大学教育文化学部

受講料：3,000円（全6回参加）

教育実践講座 猪巻 明 准教授

定 員：30名（10月29日（水）まで要申込）
※定員になり次第、締切といたします。

人間文化講座 佐々木 千佳 准教授

※当日の様子を撮影し、秋田ケーブルテレビで放送させていただく可能性があります。



池田蕉園《夢》（明治42年 第1回下萌会展で発表）

第1回 10月30日（木）
近代日本画に見る美人画の名作

第2回 11月6日（木）
近代日本画に見る竹久夢二作品と同一テーマ作品

第3回 11月13日（木）
近代日本画に見る女優像

講師： 猪巻 明 准教授

第4回 11月20日（木）
イタリア・ルネサンス絵画に見る女性像

第5回 11月27日（木）
模範としての聖女

第6回 12月4日（木）
婚姻をめぐるイメージ

講師： 佐々木 千佳 准教授

ティツィアーノ《ウルビーノのヴィーナス》（1538年）



描かれた女性—近代日本画とルネサンス絵画にみる—

〔講座日程〕

	日 時	講義題	講義概要
第1回	10月30日(木) 18:00~19:30	近代日本画に見る美人画の名作 秋田大学教育文化学部教育実践講座 准教授 猪巻 明	フランスのサロン（官展）に倣って、明治40年に設立され大正7年までの12回に渡って開催された文部省美術展覧会（文展）、大正8年から昭和9年までに15回継続された帝国美術院展（帝展）に出品された明治、大正、昭和の美人画の名作を中心に、院展、国画創作協会展等の話題作を鑑賞します。（竈木清方《築地明石町》ほか）
第2回	11月6日(木) 18:00~19:30	近代日本画に見る 竹久夢二作品と同一テーマ作品 秋田大学教育文化学部教育実践講座 准教授 猪巻 明	竹久夢二に影響を与えた文展期の閨秀美人画家が描いた美人画と、文展を飾った夢二式美人画といわれる夢二の美人画のスタイルを踏襲した日本画を紹介し、また夢二作品と同一テーマの大正、昭和の風俗画を取り上げ、近代日本画における風俗画と夢二作品の接点を学びます。（広島晃甫《夕暮れの春》、川崎小虎《ふるさとの春》）
第3回	11月13日(木) 18:00~19:30	近代日本画に見る女優像 秋田大学教育文化学部教育実践講座 准教授 猪巻 明	江戸時代の浮世絵師である鈴木春信、喜多川歌麿が描いた美人で誉れ高かった茶屋の娘がモデルの錦絵は江戸中の評判となった。この浮世絵の美人絵に倣った、女優をモデルとした美人画が昭和初期の帝展会場を飾り、一般大衆の支持を得て近代日本画における美人画の話題作となる。こうした女優像を描いた日本画家について解説します。
第4回	11月20日(木) 18:00~19:30	イタリア・ルネサンス絵画に見る 女性像—肖像画の発展 秋田大学教育文化学部人間文化講座 准教授 佐々木 千佳	肖像画ジャンルの原点である15~16世紀のイタリアルネサンス期の画家レオナルド・ダ・ヴィンチによる《モナ・リザ》を詳細に読み解いた上で、この作品と当時の社会との関係について考察します。伝統的な横顔の肖像画と比較検討しながら、新しいタイプとして登場した半身像にみられる、高度に理想化された女性表象について考えてみたいと思います。
第5回	11月27日(木) 18:00~19:30	模範としての聖女—聖母像にみる 母性の表象、聖なる娼婦 マグダラのマリア 秋田大学教育文化学部人間文化講座 准教授 佐々木 千佳	イタリアルネサンス期に数多く輩出された優れた美術家の手になる、理想化された女性像の最たるものは賢母としての聖母のイメージです。伝統的なキリスト教的な女性観を確認し、中世後期以降聖母の母性称揚が高まった社会的背景を跡付けた上で、多種に富む聖母子や特定の聖女が主題とされた意味について考察します。
第6回	12月4日(木) 18:00~19:40 (19:30~19:40 証書授与)	婚姻をめぐるイメージ —ティツィアーノ《ウルビーノの ヴィーナス》を読む— 秋田大学教育文化学部人間文化講座 准教授 佐々木 千佳	ヴェネツィアの画家であるティツィアーノ作《ウルビーノのヴィーナス》。挑発するような視線を投げかける妖艶な裸体の女性は、現実の女性を思わせるものの、女神として描かれたものです。西洋画の横たわる裸婦像の古典となった本作品の特質について詳細に確認した上で、当時の女性観や結婚のイメージとの関係性を捉えます。

〔会場案内図〕



※お車で越えの方は、明徳館ビル内立体駐車場をご利用ください。公開講座開催時は無料で利用することができます。ただし、高さ1.5メートルを超える車は利用できませんので御了承ください。その場合は、恐れ入りますが周辺有料駐車場をご利用くださるようお願いいたします。